



愛隣幼稚園

園だより

.....21. 7月

合宿の日は

新型コロナウイルスとの生活も1年半が経過して、いろいろなことに随分慣れてきたように思います。慣れてきたことが油断に繋がってはいないだろうか、そんなことも考えます。しかし、生活には慣れましたが、頭の上に乗った重い石は相変わらずそのまま、早く早く自由にどこへでもマスク無しで出かけていきたい、会えなかった人に会いたいという思いは強くなっている気がします。

さて、幼稚園ですが、今年は昨年できなかった合宿（お泊り保育）をします。それで、もり組の子どもたちは仲間や先生たちと相談しながら、準備を進めています。でも、それはどの子にとってもワクワクする楽しみなものではないようです。日にちが迫ってきて、幼稚園に行きたくない子が現れました。夜泣き、トイレが近くなる・・・などなど。やはりこれは子どもたちにとって勇気を出さないと前には進めない、年長としての大きな山のように。きっとその子たちにとっては、“こんなことさえ無ければ、今日だって幼稚園は楽しいのに。”という、出来れば避けて通りたい山でしかありません。

（実際、昨年のてんとうむし組の子どもたちの中にも、合宿が無くなってホッとしていた子どもたちが幾人もいたようです。・・・大人は苦笑いでしたが。）でも、私たちはこの山にはみんなで登りたいと思っているのです。愛隣の合宿はその日、幼稚園に泊まることだけが目的ではありません。愛隣幼稚園で出会い、過ごしてきた子どもたちが、自らやってみたいと思い、皆で考え、続けてきたあそびが、広がり深まっていった先に合宿の日があります。〈あそび〉だけでなく〈仲間との相談や協力〉もこの日を迎えるためになくてはならない経験です。年長になって新しいメンバーでグループを作りました。当番活動、遠足に向けての相談、遠足の日のグループでの活動を通して、クラスの中には居たけれど、よく知らなかった子とも出会いました。いつも一緒ではないクラスの仲間との“相談”や“協力”は難しいことです。ある子にとっては、厄介で面倒という思いを抱かせることになったかもしれません。また、これまでは何となく感じていた、みんな自分と同じ考えではない、みんな違うということにも自覚的に気付くことになりました。そうこうしながらもあそびは広がり、繋がり、幼稚園中の子どもたちも巻き込みながら、面白い毎が続いていきます。この面白い毎日の最高の1日が合宿です。それは子どもたち自身が手応えを感じる1日でもありたい。（大人に泊まらせもらう、楽しませてもらうのではなく）だから、“その日のあれやこれや”は子どもたちが相談し、皆で決めて準備をしていきます。相談は遠足の時にちょっとやっつけて、面倒なことだと知っています。それでも最高の1日のために（その明確さはひとり一人異なりますが）と、厄介や面倒にも向き合っています。その日を一緒に過ごす仲間と楽しむことを考え、夢中になって準備を進めています。意見が違ってても仲間のことを考えながら折り合いをつけていきます。出来ることは皆違いますが、それぞれが力を発揮しています。こうして、みんなで合宿の日を迎え、力を合わせて高い山に登ります。自信のある子はドキドキしている子の手を引いて、背中を押してあげてほしい。戸惑っている子には声をかけてほしい。皆で力を合わせて頂きを登り、同じ景色を見たい。皆で泊まったね、皆がいてよかったね、と笑い合いたい。その手応えがひとり一人の自信になり、もり組のひとり一人を大切な仲間と実感する日であってほしいと私たちは願っています。山に向かう力も気持ちも、登り方も違っていいのです。ひとり一人が輝き、共に生きることが出来る園生活をこの日にも実現させたいのです。